

学校教育目標	○ やさしく(徳) ○ 強く(体) ○ よく考え(知) 手をつなぐ拝島の子	【目指す学校像】	○ 生き生きと学び、達成感を味わえる学校 ○ 安心して子供を預けられる信頼できる学校 ○ 働きがいのある学校(教職員にとって)
		【目指す児童・生徒像】	○ 心身ともに健康な子 ○ 主体的・対話的で深い学びのできる子 ○ 互いに認め合い高め合う子
		【目指す教師像】	○ 教育公務員としての自覚をもち使命を果たすために、絶えず研究と修養に努め、児童のために誠心誠意職務に励む教師

領域	中期経営目標(3年間)	短期経営目標(1年間)	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度の改善策	
確かな学力	主体的・対話的で深い学びの視点による授業改善を行うとともに、「個別最適な学び」「協働的な学び」の実現を目指す。	授業改善、評価の工夫、カリキュラムマネジメントの実施と、個別最適な学び、協働的な学びを目指す指導への挑戦	・ゴール(評価)を明確にし、逆算的に計画する学習展開の工夫 ・児童の興味関心を高め、本時のめあてを学級で共有する主体的な学習 ・問題解決的、探究的な学習 ・児童の実態把握、学力調査の分析、授業改善プラン作成・実践	4 4項目全て取り組むことができた。	3	4 95%以上の児童が授業に進んで取り組むと回答	3	成果指標「授業にすすんで取り組む」は、92.4%→94.8%の児童が肯定的な回答を行っている。2学期にはさらに学習に対する意欲が高まったことがわかる。 取組指標は、3.1→3.4の回答であった。夏休みに作成した授業改善プランにしっかりと取り組んだためだと考えられる。	B	・学校の取組と、子供の評価が呼応しているように感じている。 ・不登校児童の学力の保障に工夫をしてほしい。 ・不登校児童への対応で、個々の状況に合った多様な学習が選択できるとよい。教育行政の取組が必要だと考える。	次年度も、個別最適な学びを目指し、児童の主体的な学習となるよう、授業改善を図る。そのために、ねらいの明確な学習、振り返りを確実に、指導と評価の一体化を目指す。また、問題解決的な学習や探究的な学習についても積極的に取り組んでいきたい。	
			・児童の実態に合った学習スタンダードの見直しと取組の徹底 ・「できた」が味わえる朝学習の工夫 ・進んで読みたいと思える朝読書の工夫 ・家庭学習の意味を考え、児童が自発的にやる内容の工夫と習慣付け	3 3項目は取り組むことができた		3 85%～95%未満の児童が授業に進んで取り組むと回答		成果指標「朝学習や家庭学習の定着」は、89.2%→87.6%の児童が肯定的な回答を行っている。1.6%下がったことがわかる。学習習慣の定着には課題が残る。 取組指標は、2.9→3.2の回答であった。教員は目標達成のために努力したことがわかる。				・保護者としてはあまり感じないが、資料を通して3年間の変化がわかり、おもしろい。 ・多くの児童が自ら授業にすすんで取り組んでいる。自己評価し、家庭学習にも自発的に取り組んでいることは素晴らしいと感じた。一方で、力付かない児童に対する指導が難しいと感じる。ペースは違っても、一人一人が少しずつ評価を上げることができるよう、今後の取組に期待している。
			・個に応じた指導及びUDを意識した学習展開(焦点化・視覚化・共有化) ・UD意識した学習環境の整備(板書・見出し・掲示刺激・机上や持ち物の整理) ・指導の個別化、学習の個性化の実践 ・保護者との共通理解	2 2項目は取り組むことができた		2 70%～85%未満の児童が授業に進んで取り組むと回答		成果指標「先生の授業分りやすい」は、97.8%→98.2%の児童が肯定的な回答を行っている。教師の努力と、子供たちとのよりよい関係性が引き続き築けていることがわかる。 取組指標は、3.3→3.4の回答であった。困り感をもつ児童への対応に積極的に取り組んでいるが、否感していることもわかる。				・次年度も、朝学習や家庭学習に取り組むための工夫を、基礎学力の定着の手助けとする。一定の児童が自主学習に取り組めないことがわかるため、そのような児童への個別の対応をしていく必要がある。
			・よさを認め、互いに必要とされる実感をもてる学級経営 ・価値を明確にした授業づくりと、自己と向き合う学習展開の工夫 ・年間計画の確実な実施 ・全教育活動に関連付けた指導	1 1項目しか取り組めなかった。		1 70%未満の児童が授業に進んで取り組むと回答		成果指標「自分や友達を大切にしている」は、99.1%→99.6%の児童が肯定的な回答を行っている。子供たちが互いを大切にしようという気持ちも定着していることがわかる。 取組指標は、3.3→3.4の回答であった。道徳の学習に積極的に取り組み、学級経営を行っていることがわかる。				・正に、自己指導の能力を養成する取り組みで、他の分野につながることを期待する。 ・この部分の評価が高いことは、これから期待できる力が身に付いていくことだと感じる。 ・自分の周りの仲間に対する肯定感や思いやりの心の大きさは素晴らしいと感じた。様々な学校行事の折にも、その様子を感じることができた。一方で、自分と違う行動をとる児童がほとんどであることがわかる。ただ、一部の児童の中に、突発的に相手に暴力的な行動をとる児童がいる。教師が指導すると同時に、その場にいる仲間が止められるような力を育てていきたい。
			・人権教育プログラム、いじめ防止対策の活用 ・生活指導連絡会での情報共有と、素早い対応、報道への徹底 ・アンケートの実施と未然防止、早期対応 ・ふわふわ言葉、励まし言葉の日常的な取組	4 4項目全て取り組むことができた。		4 92%以上の児童が判断できた		成果指標「よいこと、悪いことの判断ができる」は、98.9%→97.0%の児童が肯定的な回答を行っている。ふれあい月間での授業や、ふわふわはげま言葉月間の取組、ふれあいタイムの活用が感じられる。 取組指標は、3.5→3.8の回答であった。週1回の情報交換の充実や、いじめ対策委員会での話し合いを通して、教師の意識の高まりが感じられる。				・よいこと悪いことの判断ができると感じている児童がほとんどであることがわかる。ただ、一部の児童の中に、突発的に相手に暴力的な行動をとる児童がいる。教師が指導すると同時に、その場にいる仲間が止められるような力を育てていきたい。
			・ゲストティーチャーによる学びの充実 ・実践、体験活動の充実 ・栽培体験活動の実施 ・縦割り班活動における関わりでの充実 実践への取組	3 3項目は取り組むことができた		3 80%～90%未満の児童が体験学習は楽しいと回答		成果指標「縦割り班や体験活動は楽しかった」は、96.6%→96.1%の児童が肯定的な回答を行っている。人と交流をしながら学ぶことの大切さが分かったことが感じられる。 取組指標は、2.9→3.1の回答であった。1学期を振り返り、ゲストティーチャーを招聘した学習に取り組めたことがわかる。				・自分や友達を大切にしているという意識は、かなり強く感じていることがわかる。しかし、時々相手の気持ちを考えない言動にはいる児童も一部にみられる。特別支援教育の専門家にも相談して、自分の気持ちをコントロールできない児童の対応について検討していきたい。
			・グッドモーニング60分の取組 ・ノーマedia習慣の取組 ・安全、防災教育の確実な実施とふりかえりの重視 ・チャレンジ精神、ルール尊重、フェアプレーの大切さを指導・実践	4 4項目全て取り組むことができた。		4 90%以上の児童が安全健康についていかにと回答		成果指標「グッドモーニング60分やノーマedia週間に取り組んだ」は、84.5%→80.0%の児童が肯定的な回答を行っている。1学期よりさらに数値が下がっている。 取組指標は、3.5→3.7の回答であった。教師が生活習慣の定着を大切に気付けたいと、指導を意図的に行っていることがわかる。				・学年の取組だけでは、いかんどもしがたい分野だと思ふ。子供たちどう興味をもってもらい、家庭の協力もどう得られるかという工夫が必要だと思ふ。ネットのリテラシーも同様に対応が必要だと思ふ。 ・体を動かす機会が減っている。地域でも家庭でも、機会をつくるように工夫したい。
			・めあてが明確な体育学習の展開 ・元気アップガイドブックを活用した、体力運動能力調査の分析と、具体的な取組の推進 ・体育朝会の取組と授業での活用 ・挿一小ピクでの運動遊びの体験から、遊びの日常化への工夫(学活含む)	3 3項目は取り組むことができた		3 80%～90%未満の児童が体力が付いていると回答		成果指標「学校で遊んだり、身体を動かしている」は、89.1%→85.3%の児童が肯定的な回答を行っている。1学期より数値が下がってしまった。 取組指標は、3.0→3.4の回答であった。体力向上に関する指導を目指し、挿一小ピクの工夫や授業の向上に向けた取り組みをしていることがわかる。				・学校でできる取組は、かなりすすめることができている。子供たち自身の中に、外遊びを敬遠する児童が増えていることが感じられる。仲間とかわりあって遊ぶことが苦手だった、トラブルにつながることも実際にある。仲間づくりに力を入れて工夫をしていきたい。
			・お弁当の日から栄養について考えたり、食の大切さについて考えたりする活動 ・保健指導から、自分の体についての学び ・健康教育(性犯罪等)への取組 ・外部人材を招聘しての交流や講話や実技指導の取組	2 2項目は取り組むことができた		2 70%～80%未満の児童が自分のお弁当の日でできた		成果指標「安全や健康についての学びを、生活の中で活かす」は92.0%→87.0%の児童が肯定的な回答を行っている。児童の意識が下がってしまったことが残念である。 取組指標は、2.9→3.1の回答であった。食育や体を大切に指導の機会を作ろうと努力しているが、まだ十分であることがわかる。				・児童の意識が下がってしまったことは残念である。これまで同様に安全指導の充実を図って生きた。また次年度はさらに保健学習での養護教諭の参加や、保健指導での学びを充実させていきたい。発達に応じた内容を考慮した指導ができるよう工夫していきたい。
			・学級活動を通して学校生活を仲間と高める活動への取組 ・係活動、委員会活動、クラブ活動、縦割り班活動の自主的な取組 ・自己肯定感、有用感を高める活動の工夫 ・年間指導計画に応じた、キャリア教育実践の充実(キャリアバラムの活用)	4 4項目全て取り組むことができた。		4 90%以上の児童が自分の得意なことを考えると回答		成果指標「自分の生活を振り返りよりよくしようと思っている」は84.1%→92.2%の児童が肯定的な回答を行っている。1学期より8.1ポイント上がっている。 取組指標は、3.3→3.7の回答であった。学級活動を通して、仲間と高め合う活動にすすんで取り組んでいることがわかる。				・日常の子供たちが、自分の考えを伝える力を育む取組だと思ふ。自分たちで話し合い自分の意見を伝えるだけでなく、他の意見も聞き、話し合い、それが実現する経験を重ねることが大切だと感じる。 ・自分の未来について、児童は大人が感じているより、ずっと真剣に考え意識しているのだと嬉しく感じた。3年間子供たちを信じ、色々な取組を行い、評価分析を行ってきた先生方の成果であると感じる。本当にありがたい、学校評議員として総括にかかわらせていただき、光栄に思う。
			・タブレット端末の積極的な活用 ・デジタル教科書や、インターネット等からの情報・資料の活用 ・情報モラル教育の充実 ・SNS学校ルールの見直しと周知を行い、適切なデジタルデバイス利用の推進	4 4項目全て取り組むことができた。		4 90%以上の児童が自分の得意なことを考えると回答		成果指標「タブレットを活用し、使い方に気を付ける」は94.9%→98.4%の児童が肯定的な回答を行っている。タブレットの利用に慣れ、適切に利用していることがわかる。 取組指標は、3.2→3.4の回答であった。夏季研修も行ったが、数値が変わらないことから、教員の苦意識が高いことが感じられる。				・児童は、タブレットを利用した活動に慣れてきたこと、情報モラルについて気を付けて使用することができていることがわかる。教員の数値が上がらないうえ、次年度も意図的・計画的に研修を取り入れていきたい。
			・地域人材や環境を活用した学習の充実 ・生活科見学、社会科見学、校外学習を通して学びを学習に生かす ・総合的な学習の時間の充実 ・環境をはじめとするSDG'sを意識した活動	3 3項目は取り組むことができた		3 82%～92%未満の児童が地域の方とのふれあえた		成果指標「校外学習や地域の方とのふれあい学習は楽しかったか」は98.5%→97.4%の児童が肯定的な回答を行っている。児童の肯定感が高いことがわかる。 取組指標は、2.7→3.2の回答であった。2学期には、地域の方との交流活動ができたことがわかる。				・地域の方との交流や、ゲストティーチャーからの学びが効果的に行われていることがわかる。教員の意識も高まり始めている。次年度も引き続き取組、効果的な学習となるよう工夫していきたい。
・1項目しか取り組めなかった。	1 1項目しか取り組めなかった。	1 72%未満の児童が判断できた	72%未満の児童が判断できた									

輝く未来